



子どもに右を向かせたいとき、どうしますか？

校長 多田 和幸

「右を見てごらん。」と呼びかける。 「右を向かないと、怒るよ。」と脅す。
「右を向いたら、アメをあげるよ。」と物で誘う。 「あつ。と言って、自分が左を見る。」
「子どもの右側で、鈴を鳴らす。」 「みなさんの周りに、宝物を隠したよ。」と言う。・・・

本田小学校では、

『主体的に学び、共に考えを深め合う子ども』の育成

～子どもの意識を大切にしたい「問い」のある授業づくり～に取り組んできました。

わたしたちは、子どもの中に生まれた「あれ、どうしてだろう？」「なんだかおもしろそう。」
「今までと違うぞ。」・・・を、授業の中で拾い上げ、膨らませ、凝縮して、子どもが自ら動き出す授業をめざしています。

子どもが自ら右を向きたくするような仕掛けを作るのは難しく、時間もかかります。しかし、ひとたび右を向き、そこに魅力を感じた子どもは、大人の手を借りずとも、どんどん深く深くそこを掘り下げ、自分から前へ進もうとします。

右を向く価値を見い出し、右を向きたいと願い、右を向く方法を考え、困難でも失敗してもねばり強く挑戦し、多様な仲間と力を合わせて解決の道を探っていく。そんな子どもを育てたいと、研究を続けています。

学習だけでなく、「あいさつをさせたい。」「仲よくさせたい。」「言葉遣いをよくしたい。」「時間を上手に使わせたい。」「体力を伸ばしたい。」・・・様々な「・・・させたい。」があります。

子どもが「させられる」のではなく、「自分からしよう」という気持ちにすることは、学習同様、そう簡単ではありません。本田小では、児童会の工夫した取組や縦割り活動、学級での話し合い、自分のめあてづくりなど、子どもたち自身による取組を大切にしながら、子どもたちの主体性を伸ばす教育に力を入れてきました。

2学期のまとめ、これまでの学校の取組について振り返る時期となりました。本田小の子どもたちの「(教育目標)自ら きたえる」力は、どのくらい育っているのでしょうか。

グランドデザインで示した取組への評価、子どもたちの実際の姿、学校への期待など、皆様の声をお寄せいただきました。今後の教育活動に生かして参ります。これからも、学校・保護者・地域の手を携え、それぞれが「お任せ」でなく「自ら」の気持ちを大切に、本田の子どもを育てていきたいと思います。

協力することができた「本田小スマイル祭り」



12月6日に児童会行事「本田小スマイル祭り」を行いました。スマイル班の班長(6年生)がリーダーシップを発揮して、出店の話し合い、準備等を行いました。どの学年の児童も、準備から当日まで自分の役割を一生懸命果たそうとする姿が見られました。活動が終わるたびに反省会を開き、みんなで「協力したこと」を話し合いました。これらの活動を通して、子どもたちには、他者とかがわる力や問題を解決する力が身に付いたと思います。

今年度もたくさんの保護者・地域の皆さんにも、参加していただきました。ありがとうございました。



スマイル



出店の計画「班での話し合い」

出店「コロコロゲーム」

振り返りの活動

4校交流会が行われました。

令和3年度に4つの小学校が統合します。統合後も子ども同士の間関係が円滑になるよう、1~4年生と特別支援学級がそれぞれ交流会を開きました。交流会は、各小学校が会場校となっており、本田小以外の学校内に初めて入りました。校舎案内や各校学校紹介、ゲームなどの活動を通して、子どもたちは他校の子とすぐに打ち解け、笑顔のあふれる交流会になりました。



早寝早起きで すくすくと

11月14日、児童会健康委員会が、睡眠の大切さを知らせようと「健康すくすくスタンプラリー」を企画しました。健康委員が劇で睡眠の大切さを教えた後、スマイル班でスタンプラリーをしました。スタンプを押すコーナーには、1日の睡眠時間を計算するコーナーや、目覚めたら手でグーパーを繰り返すとすっきり起きられる裏技を教えるコーナーもありました。子どもたちの発想はすごいですね。

